

平成 29 年度第 2 回佐用町総合教育会議 会議録

○日 時 平成 29 年 12 月 25 日(月)午後 3 時 00 分開会

○場 所 佐用町役場 3 階 301 会議室

○出席者

佐用町	町長	庵途 典章
	総務課長	森下 守
	健康福祉課長	大永 克司
佐用町教育委員会	教育長	平田 秀三
	教育委員	塚崎 博行
	教育委員	矢内 正敏
	教育委員	永井 薫
	教育委員	岡本 正
	教育課長	谷口 俊廣
	生涯学習課長	服部 憲靖
	教育課企画総務室長	服部 吉純
	教育課教育推進室長	大野 公嗣
	教育課西はりま天文台公園長	西本 和彦
	生涯学習課生涯学習推進室長	福地 泰弘

○会議日程

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・調整事項

(1) 佐用町立中学校の学校規模適正化について

(2) その他

4. 閉会

1. 開会

生涯学習課長 それではただ今から平成 29 年度第 2 回佐用町総合教育会議を始めさせていただきます。

会議日程に沿って進めさせていただきます。

2. あいさつ

生涯学習課長 最初に、庵途町長からごあいさつをお願いいたします。

町長 各学校においても 2 学期が終わり冬休みに入りました。今年の冬は寒い日が多くインフルエンザの心配をしておりましたが今の所は流行していないようで安心しております。

去る 12 月 17 日に開催しました利神城の国指定記念シンポジウムにはたくさんの方に来場していただきました。利神城跡を始め町内には多くの史跡や文化財がありますが、そのような町の財産を保護していくことは、文化と歴史を伝承し地域を支え未来へ繋げていくこととなります。自分の町への愛町心を育むことが大切であり、それが教育でもあると思います。

本日の内容にも児童・生徒数の推移と予測と言う項目があります。全国的に人口が減少していく中、各自治体においていろいろな施策を実施しておりますが、最終的には地域の子どもたちが地域を支える人材に育ち、人を伝承していくことが人口減少対策として最も大切だと考えます。そのような観点に立って学校教育を進めて頂きたいと思います。

また、先日のさようマラソンにも町外からたくさん参加していただきました。町内の子どもたちももっともっと積極的に参加し、家族と共に町のイベントを盛り上げて愛町心を育成していただきたいと思います。

今後の総合的な対応をお願いして、あいさつといたします。

生涯学習課長 ありがとうございます。

続きまして、平田教育長をお願いいたします。

教育長 失礼いたします。委員の皆様には教育委員会に引き続きの会となりますが、よろしくをお願いいたします。

本日から冬休みの学童保育が始まりました。午前 8 時から午後 6 時までの長時間の保育となります。午前中に 4 カ所を訪問いたしました。各学童で受入れ人数の差がありますが、子どもたちは笑顔で元気に過ごしております。子どもたちは、学校も学童保育も同じ活動として過ごしております。児童数は年々減少しておりますが、学童保育の人数は今後も増加して

いくと考えております。

本日は中学校の規模適正化を議題としておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 協議・調整事項

生涯学習課長 それでは、3の協議・調整事項に入りますが、以降の進行は教育長にお願いしたいと思います。教育長、よろしくお願いいたします。

教育長 それでは、(1)佐用町立中学校の学校規模適正化についてでございます。今回初めて協議させていただきます。

小学校の規模適正化につきましては、先般三河小学校区の自治会長会で今後の進め方を協議させていただきました。来年度においては利神小学校区の協議も必要となります。並行して、中学校についても今後の方針を考える時期が来ております。

それでは、最初に中学校の生徒数の推移や区域外就学の実態について教育課の室長より説明いたします。

企画総務室長 別紙の資料をご覧ください。

(別紙 中学校生徒数の推移と予測、平成29年度中学生区域外就学一覧等により概要を説明)

○平成41年度の生徒数予測は、4中学校で合計88名

○本年度県立・私立・その他特殊事情による区域外就学生徒数は26名

○スクールバスは、佐用中で3路線、上津中で1路線を運航中

教育長 資料の説明が終わりましたので、皆様のご意見をお願いいたします。

教育委員 現在の中学校スクールバスルートを見ると、仮に一校に統合した場合も距離的に不可能ではないと思われま。

人数やクラス編成、先生の数や割り当てなど課題もあると思われまますが、新たな中学校を建設して一校に統合することも無理ではないと考えられま。

教育長 一校に統合した場合でも、スクールバスでの通学は可能な距離と時間だと判断できます。

町長 現在でも、県立大学附属中学校に長時間かけて通学している例もあります。宍粟市のような面積の広い所では無理ですが、佐用町の面積なら一校でも通学が可能ではないかと思いま。

ただし、新たな中学校を作るとなれば財政的な負担や廃校になった学校の校舎やグラウンドの再活用などいろいろな課題が想定されま。

教育委員 今後の生徒数の推移を見ると、仮に1校にするとしたら、現在の4中学校に勤務する教職員の人事はかなり難しいと考えま。

- 教育長 4校が1校になった場合、単純に教員が4分の1になるわけではありません。教科によって1人になる場合と複数になる場合があります。
- 教育委員 保育園から中学校まで常に一クラスでまったくクラス替えが無い学校が現にあります。いろんな人生経験をするためにもクラス替えは必要だと考えます。
- 教育委員 中学校卒業まで、人間関係が全く変わらないというのは好ましくないと考えます。徐々に人数が増え人間関係も広がっていくことが望ましいと考えます。また、人間関係がうまくいかなかった時にもクラス替えによって状況が変わることもあります。
- 町長 仮に町内に2つの中学校があれば、いじめとかの問題が生じた場合にはもう一校へ就学させることも可能となります。
- 教育長 区域外就学する中学生が現在20名以上あります。部活動で区域外就学が増えているという実情は憂慮すべき状況です。
- 教育委員 仮に1校になった場合でも、生徒や保護者が望む部活を全て設置することは難しいです。時代と共に部活の要求も変わってきております。顧問も二人以上必要ですので、教員の問題もあります。
- 教育委員 その様な問題も含め、中学校の適正化について協議を開始することが必要です。
- 教育委員 学校規模適正化推進計画の中で、小学校の場合は複式学級の解消を大きな目標としていますが、中学校については生徒数の減少問題以外はあまり統合の目的が明確ではないと思います。部活動の件もありますが、親の立場になれば少人数の方が学習の指導が充実するのではないかと考える保護者もいると思います。
- 教育委員 そのように考える保護者もいます。
- 教育委員 イメージ的にはそのように思われますが、データ的に見て人数が少ない方がみんなの成績がいいかと言うとそうではありません。人数が多くても少なくとも、学力のばらつきはどうしても出て来ます。
- 教育委員 一クラス17,18人が一番学習効果の上がる人数であるという教育学者もいます。
- 教育委員 一学年35人程度を2クラスに分けて授業をするということと、一学年17,18人とは違うと思います。いじめの問題など、やはりクラス替えは必要と思われます。
- 町長 大人になっていく過程の中で、いろんな人とかかわり合って成長していくことが必要です。本町では1校に統合しても小規模学校であることには変わりありません。学校外でも住民とかかわりながら総合的に成長していくことも大切です。

また、佐用町だけですべての教育活動を完結させることは財政的にも施設面や質的にも困難です。周辺市町の施設なども活用しながらトータルで考える必要があります。

教育委員 以前、コンピュータを活用して各家庭で勉強し学力を向上させるという発想がありました。しかしながら、学力を含めて人格形成のためにも学校という教育環境が必要です。

教育長 既に出生数が 100 人未満となっています。さらに区域外就学がありますので、生徒数はもっと少なくなります。

総務課長 今後は小中一貫校も含め、将来を見据えた夢と希望のある学校教育を検討する必要があると思います。

町長 中高一貫は、高校が県立であるので取り組みが難しいですが、小中一貫校は可能性として考えられると思います。

教育委員 義務教育学校という 9 年間をカリキュラムとした学校も考えられます。
教育長 義務教育学校のメリットはいろいろとあります。

そのようなことも含め、多方面での検討が今後必要と考えます。

いろいろなご意見を出していただいて今後検討していきたいと考えております。

教育長 その他ご意見ございますか。

町長 部活動による区域外就学について、問題はありますか。

教育長 現状としては、本人及び保護者の希望を優先しております。

ただし、保護者が希望しても区域外就学を受け入れてくれる市町とそうでない市町があります。

教育委員 受入れ先の市町が受入は出来ないと断らない限り、こちらから部活による区域外就学はできませんとはいづらいのが現状です。できない明確な理由がないと保護者も納得しません。

教育長 他にございませんか。

(2) その他に入ります。何かご意見等ございますか。

町長 学童保育の人数が増加していますが、対応は大丈夫ですか。

教育委員 児童からも学童保育が楽しいと聞きます。親としても助かっています。今年南光と三日月ができたので、4つの学童保育の指導内容もある程度統一していく必要があります。

教育課長 支援員及び補助員には精一杯頑張ってくださいしております。

保育の内容については平準化していくことが大切と考えます。

教育長 今年で旧 4 町に一つずつ学童保育ができました。民間委託を除く 3 園に

おいては毎月支援員会議を開催し、連絡と調整を図っております。園により人数の差はありますが、保育の業務内容について再度検討を行っていき
たいと思います。

教育委員 学童に行くことにより子どもたちの人間関係が保たれている面もある
ようです。

4. 閉 会

教育長 他にございませんか。

特に無いようですので、以上で平成 29 年度第 2 回総合教育会議を閉会
とさせていただきます。

長時間ありがとうございました。

閉会 午後 4 時 30 分